



平成の名匠

最先端の技術者・研究者たち

230

川崎 芳樹さん ③ (いすゞ自動車)



世界最高品質を生み出す礎

歯車博士

かでも、三十歳代の終わりごろ、オペルの二人の幹部社員に出会ったことが大きい。ひとりは、卓越した設計工。もうひとりは、モノづくりのノウハウをあますことなく教えてくれた。一方、現場人間のコーチャーたる川崎は、ドロップトゥンジニアのドロップト。もうひとりは、歯車造りの神様コーザー。

「歯車は育ち（製造）で決まる」と言われたことが忘れられない。川崎には歯車製造の理論と実践に没入して約二十年のキャリアがある。な

五十の手習い、といったら、「歯車博士」の川崎芳樹（金）さんは三年前、工学博士号に挑み、二年間で結果させた。

「正直にいって頭は堅くなっているし、心身両面できつかった」

単位は、教授上京時における出張講義受講や面接試問、リポートテスト、技術発表などで取得している。「最大の苦労は、博士論文の作成でしたね。博士論文は、プロセス重

た。それは、八九年五月新設のグループ組織「ギヤラボ」につながり、世界最高品質の自動車歯車を生むことになる。能者のひとりひとりが、そこで私は、教えつける。そこで私は、教えつける技術と工具部門を加え、さらなる品質向上とコストダウンをはかるべく、というのが「ギヤラボ」だった。スミッシュョンの生産は、も、チームプレーになると、少し様子が変わった。

た。され、同社製トランスミッションの生産技術は、優秀ですね。で面で大きく貢献した。「韓国の技術者と技

能者のひとりひとりが、そこで私は、教えつける。そこで私は、教えつける。そこではなく、一緒に汗をかく。こう」と、反日感情を抜き

た。そこには、みんなついてきてくれて、さうなる品質向上とコストダウンをはかるべく、というトダウムをはかるべく、というトダウムをはかるべく、というのが「ギヤラボ」だった。スミッシュョンの生産は、も、チームプレーになると、少し様子が変わった。

た。そこには、みんなついてきてくれて、さうなる品質向上とコストダウンをはかるべく、というのが「ギヤラボ」だった。スミッシュョンの生産は、も、チームプレーになると、少し様子が変わった。

た。そこには、みんなついてきてくれて、さうなる品質向上とコストダウンをはかるべく、というのが「ギヤラボ」だった。スミッシュョンの生産は、も、チームプレーになると、少し様子が変わった。

た。そこには、みんなついてきてくれて、さうなる品質向上とコストダウンをはかるべく、というのが「ギヤラボ」だった。スミッシュョンの生産は、も、チームプレーになると、少し様子が変わった。

◆ ジャーナリスト
島谷泰彦

◆ 文中敬称略
◆ かわさき・よしき いすゞ自動車技術開発部長 工学博士、技術士